

Ⅲ 活動記録

1 展覧会

- ・ 出品リストについては、他所蔵家作品のみ詳細を掲載した。
- ・ 画像は各展覧会のリーフレットを使用した。
- ・ 美術講演会講師の所属は開催当時のもの。

平成 24 年度

特別展 鏑木清方没後 40 年「女性風俗と四季の風情」

清方は、日頃から街を歩く女性の装いに着目したり、古くからの日本美術や文学における美人を研究して、作品に描く着物や帯の色、模様工夫を凝らした。またスケッチした草花や風物を用いて、四季折々の景色の中に、風情豊かに女性の姿を描いている。本特別展では、清方が描いた四季の美人画を紹介した。



会期 平成 24 年 4 月 19 日(木)～平成 24 年 5 月 23 日(水)(開館日数:31 日)

総入館者数 3,782 人(一日平均:122 人)

関連事業

「鎌倉ミュージアムめぐりスタンプラリー」

【開催期間】平成 24 年 4 月 1 日(日)～平成 25 年 3 月 31 日(日)

関連記事

「鏑木清方記念美術館 特別展 鏑木清方没後 40 年 女性風俗と四季の風情」(かまくら四季のみどころ 5 月号)

「鏑木清方記念美術館 特別展 鏑木清方没後 40 年 女性風俗と四季の風情」(広報かまくら 5 月 1 日号)

他 5 件

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
春の野遊	昭和 30 年代	紙本着色・軸	42.3×52.0	千葉市美術館蔵(島コレクション)
夏の雨	制作年不詳	紙本着色・軸	45.9×51.7	同上
薫風	大正 8 年(1919)	絹本着色・軸	173.8×71.8	千葉市美術館蔵
江の島 箱根	大正 5 年(1916)	絹本着色・軸	(各)230.5×70.5	横須賀美術館蔵
葛葉	昭和前期	紙本着色・軸	118.5×30.5	個人蔵(千葉市美術館寄託)
阿竹大日如来	昭和 18 年(1943)	絹本着色・軸	149.3×72.3	個人蔵

【所蔵品】

「清子四歳像」「砂浜少女」「虫の音」「狐狗狸」「ゆあみ」「子供二人」「二人静」「教誨」「牡丹 一」「牡丹二」「芍薬」「龍膽」「ほづき」

スケッチ:「菊・草花」「桜」「椿」「吉濱の筍」「躑躅」「花菖蒲」「薊」「紅花」「篠崎の茄子」

「清方畫譜」(『講談雑誌]):「浮いて鷗の(清方畫譜の三)」「九月の海(清方畫譜の九)」「菖蒲湯(清方畫譜の五)」

『清方美人畫譜』:「幕間」「五月雨」「午後海」「春雨の寮」「白壁」「青き星」「初雪」「湖のほとり」「濱町河岸の秋」「島田くづし」

『文藝俱樂部』口絵:「こすもす」「白鳥」「雛壇の下」「紅さす女」

口絵:「秋のおとづれ(『講談雑誌])」「歌留多會の夜(『婦人公論])」「『百合子(中編・後編)』菊池幽芳著」「『日之出島(朝日之巻の下巻)』村井弦斎著」「『新緑』小山内八千代著」「『恋の浮島』江見水陰著」「ほづき」「春装」「散歩」「さつき花」

小栗風葉著作口絵:『恋女房』『麗子夫人(前篇)』『横恋慕』『月魄(上巻 藤乃の巻)』

絵日記:「花月園のだんす(『夏の生活])」「海へ(『游心庵漫筆])」

特別展「一葉生誕140年 清方に見る明治の女性」

鏗木清方は、樋口一葉の作品を愛読していた。特に、美登利と信如の悲恋の物語「たけくらべ」は部分的に暗誦できるほどであったという。清方は一葉の文章に魅せられ、それらに取材した作品を描いている。本特別展では、一葉の小説・随筆を題材にして描いた清方の作品のほか、清方や一葉が青少年期を過ごした明治時代を中心とした女性たちの絵姿も紹介した。



会期 平成 24 年 5 月 26 日(土)～平成 24 年 7 月 1 日(日) (開館日数:31 日)

総入館者数 3,721 人(一日平均:120 人)

関連事業

「鎌倉ミュージアムめぐり」スタンプラリー

【開催期間】平成 24 年 4 月 1 日(日)～平成 25 年 3 月 31 日(日)

美術講演会「清方に見る 樋口一葉と文学」 【講師】山田 有策氏(東京芸術大学名誉教授)

【日時】平成 24 年 6 月 5 日(火) 午後 1 時 30 分～3 時 30 分

関連記事

「鏗木清方記念美術館 一葉生誕 140 年 清方に見る明治の女性」(新美術新聞 3 月 21 日)

「鏗木清方記念美術館 特別展 鏗木清方没後 40 年 女性風俗と四季の風情」(旅うらら 鎌倉湘南ガイドMAP 4 月 2 日)

「鏗木清方記念美術館 特別展 一葉生誕 140 年 清方に見る明治の女性」(ジェイシー・プラス 6 月号)

「鏗木清方記念美術館 特別展 一葉生誕 140 年 清方に見る明治の女性」(かまくら四季のみどころ 6 月号)

「鏗木清方記念美術館 清方に見る明治の女性」(かまくら春秋 6 月号)

「鏗木清方記念美術館 特別展 一葉生誕 140 年 清方に見る明治の女性」(鎌倉萌 6 月)

「鏗木清方記念美術館 特別展 一葉生誕 140 年 清方に見る明治の女性」(美術の窓 6 月号)

「鏗木清方記念美術館 特別展 一葉生誕 140 年 清方に見る明治の女性」(広報かまくら 6 月 1 日号)

「鏗木清方記念美術館 特別展 一葉生誕 140 年 清方に見る明治の女性」(讀賣新聞 6 月 15 日)

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
一葉	昭和 15 年(1940)	絹本着色・軸	143.6×79.4	東京藝術大学
夏	明治 32 年(1899)	紙本着色・額	35.1×29.3	同上
東京市十五区名所図	大正初期	絹本墨画着色・画帖	(各)10.5×9.0	同上
川開き	昭和初期	絹本着色・軸	113.0×27.0	同上
大黒屋の美登利	昭和 14 年(1939)頃	絹本着色・軸	27.1×23.8	山梨県立文学館

【所蔵品】

「一葉女史の墓」「秋宵」「あじさい」「ふたつあちさみ」「にこりえ(序文・第 1 図～第 15 図)」

下絵:「たけくらべの美登利」「明治の女」「初冬の花」「小説家と挿絵画家」「たけくらべ(霜の朝)」(2 点)「たけくらべ(つり忍)」(2 点)

スケッチ:「樋口家の墓」

「たけくらべ」関連作品:「たけくらべ(『現代名作集』口絵原画・下絵)」「美登利像(鈴木敏也『たけくらべ評釈』口絵)」「たけくらべ(『研究画林』第 6 巻)(『全集樋口一葉 第二巻 小説編二』)」「たけくらべ(『樋口一葉集 日本近代文学大系 8』)」「『たけくらべ』の美登利(『苦楽』表紙絵)」

その他樋口一葉関連作品:「『樋口一葉全集』扉意匠」「夏子(泉鏡花『薄紅梅』『東京日日新聞』挿絵下絵)」「泉鏡花『薄紅梅』口絵」

『文藝倶楽部』口絵:「梅雨晴」「ひともし頃」「そぞろあるき」「ゆふ暮」「湯治場」「よき事きく」

『婦人世界』:「新婦人」「星多き夜」「散るいてふ」「さくら色」「春霞巾を着けた女」「植物園の池(下絵)」

収蔵品展 「清方のまなざし 夏の美人」

清方は、幼い頃を江戸の庶民文化が残る明治の東京・京橋木挽町で過ごした。画家として画壇で地位を築き始めてからは、当時の暮らしに想いを馳せ、作品に描いている。四季の中でも、夏にみられる風物は、人々の暮らしの風情を鮮やかによみがえらせるものとして、好んで題材にした。本展覧会では清方が描いた夏の情趣豊かな美人画を紹介した。

会期 平成 24 年 7 月 7 日(土)～平成 24 年 8 月 26 日(日)(開館日数:44 日)

総入館者数 3,255 人(一日平均:73 人)



関連事業

「夏休み親子鑑賞」 【開催期間】平成 24 年 7 月 7 日(土)～8 月 26 日(日)

会期中、小・中学生及び同伴者 1 名観覧料無料

「鎌倉の小さな美術館へようこそ」【開催期間】平成 24 年 7 月 7 日(土)～8 月 26 日(日)

北鎌倉 葉祥明美術館との入館料相互割引

「平塚市美術館 広報連携・相互割引」【開催期間】平成 24 年 7 月 21 日(土)～9 月 2 日(日)

「鎌倉ミュージアムめぐりスタンプラリー」 【開催期間】平成 24 年 4 月 1 日(日)～平成 25 年 3 月 31 日(日)

関連記事

「鎌木清方記念美術館 企画展 清方のまなざし夏の美人」(湘南百撰 夏号)

「鎌木清方記念美術館 清方のまなざし夏の美人」(かまくら春秋 7 月号)

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展 清方のまなざし夏の美人」(広報かまくら 7 月 15 日号)

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展 清方のまなざし夏の美人」(旅うらら 鎌倉湘南ガイドMAP 7 月 2 日)

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展 清方のまなざし夏の美人」(かまくら四季のみどころ 7 月号、8 月号)

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展 夏の美人『盆提灯』『柳の下に涼む娘』など」(鎌倉朝日 8 月 1 日号)

「鎌木清方記念美術館 清方のまなざし夏の美人」(かまくら春秋 8 月号)

「鎌木清方記念美術館 収蔵品展 清方のまなざし夏の美人」(ジェイシーエヌ・プラス 8 月号)

出品作品

「夏の思い出」「新大橋之景」「ゆかた」「手賀沼(寄託作品)」「山百合」「柳の下に涼む娘」「清流」「夏の柳井戸(柳乃井戸)」「風景」「夏の生活(第 19 図)」「君ヶ寄漫筆(金沢絵日記の二)(第 24 図)」

下絵:「霽れゆく村雨」「涼」「鯛」「のれん(夏姿)」「朝夕安居 昼」「涼」(『文藝倶楽部』)「夏ざしき」「風鈴」「築地川みちしほ」「紫陽花の谷」「うち寄せる浪」(『新小説』)「物干台納涼」「いで湯の夕べ」(『文藝倶楽部』)

スケッチ:「夏の柳井戸(柳乃井戸)」「うち寄せる浪」(『新小説』)

『文藝倶楽部』口絵:「蚊遣の煙」「いで湯の夕べ」

『講談雑誌』口絵:「盆提灯(清方画譜の七)」「戀の湊(清方画譜の八)」

『新小説』口絵:「空虚」「泉鏡花著『起誓文』」

その他口絵:「夕涼み」(『文藝界』)「星多き夜」(『婦人世界』)「海水浴」「玉づさ」「阿蘭陀船」「しほかぜ」

雑誌表紙絵:「縁日」(『文藝界』)「海風」(『文藝倶楽部』)「『文藝界』3 卷 4 号」「芙蓉」(『苦楽』)「『苦楽』第 2 卷第 8 号」「『苦楽』第 3 卷第 7 号」

『東京 築地川』:「亀井ばし」「氷店」

『鎌木清方繪入本 御濠端』:「柳の井」

団扇:「美人 のれん」「美人 日傘」「美人 朝顔」「雁皮」「朝顔」「美人 朝露」

テーブルセンター:「あじさい」

ゆかた:「あじさい」

収蔵品展 「明治の女性美」

明治の後半から、鏑木清方は挿絵画家として、雑誌に口絵や挿絵をえがいていた。特に巻頭で掲載される口絵の出来映えにより、販売部数が大きく左右されるため、先輩画家の画風を学んだり、流行の装いを研究したりした。また、筆づかいの向上にも日夜取り組んだ。その後、日本画家に転身すると、自由な画題で制作を始め、主に明治の女性を描いた。

大正・昭和にかけて、大震災と戦争により、人々の暮らしは大きく変化した。清方は、自身が穏やかに暮らすことのできた明治を追懐し、その風情を好んで描いている。

本展覧会では、明治の女性に関する作品や口絵を中心に紹介した。



会期 平成 24 年 8 月 30 日(木)～平成 24 年 9 月 30 日(日)

(開館日数:29 日)

総入館者数 2,316 人(一日平均:79 人)

関連事業

「鎌倉ミュージアムめぐりスタンプラリー」 【開催期間】平成 24 年 4 月 1 日(日)～平成 25 年 3 月 31 日(日)

「平塚市美術館 広報連携・相互割引」 【開催期間】平成 24 年 7 月 21 日(土)～9 月 2 日(日)

関連記事

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展 明治の女性美」(広報かまくら 9 月 1 日号)

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展 明治の女性美」(かまくら四季のみどころ 9 月号)

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展 明治の女性美」(旅うらら 鎌倉・湘南ガイドMAP)

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展 明治の女性美」(東京新聞 美術・博物館ガイドゆめぼっけ 8 月 30 日)

「鏑木清方記念美術館 明治の女性美」(かまくら春秋 9 月号)

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展 明治の女性美」(ジェイシイエヌ・プラス 9 月号)

出品作品

「ほろづき」「浅みどり」「砂浜少女」「ゆあみ」「虫の音」「栗をむく娘」「風景」「秋草(寄託作品)」「明石町『東京 築地川』」

「作者『東京 築地川』」「築地河岸」「築地川界限」「築地河岸「佃の渡」」

下絵:「紅雨荘」「菊花節」「明治の女」「客間」「野辺の女学生」「隅田川風景」「明治の女」「水声」「河添の家」「帯」「汐路のゆきかひ」「麗人影像二」「麗人影像三」「帯」「下町に灯のともる頃」「草双紙を読む女」

『文藝倶楽部』口絵:「ゆふ暮」「白魚」「あさ露」

『講談雑誌』口絵:「九月の海(清方面譜の九)」「秋のおとずれ」

『新小説』口絵:「楊柳歌」「沼の女」「紅雪録」「胡蝶之曲」「冬の夜語」「くもり日」「新緑(銅臭)」「瑞香(百花百姿)」「きぬぎぬ川-女専仙後記-」「秋江(一情一景)」

『婦人世界』口絵:「星多き夜」「新夫人」

その他口絵:「小栗風葉著『横恋慕』」「村井弦齋著『日之出島 朝日之巻の下巻』」「村上浪六著『當世女 前編』」

「川上眉山著『観音岩』」「岡鬼太郎著『花柳巷談二筋道』」「菊池幽芳著『筆子 初枝の巻』」「菊池幽芳著『夏子 前編』」

その他「歌妓三態(『鏑木清方繪入本 御濠端』)」

書籍『新小説』(口絵:沼の女)、『新小説』(口絵:紅雪録)

収蔵品展 「清方の美人画」

明治から昭和にかけて活躍した美人画の大家、鏑木清方。その画業は、小説に登場する女性たちを挿絵にすることから始まる。清方は尾崎紅葉や泉鏡花らの単行本の口絵などを手掛け、挿絵画家として人気を得る一方で、自由な画題で描いてみたいという気持ちから、日本画家へと転身した。そして優美な美人画を中心に情緒豊かな作品を制作している。

本展示では、早朝に稲田が広がる小路を散歩する長女を描いた《朝涼》、秋晴れの日には山路で紅葉狩りを楽しむ姉妹を描いた《桜もみぢ》など、情緒あふれる清方の美人画をご覧いただいた。なお、多くの方からの観覧希望にお応えして、《朝夕安居》をあわせて展示した。



会期 平成 24 年 10 月 4 日(木)～平成 24 年 10 月 31 日(水)

(開館日数:25)

総入館者数 2,812 人(一日平均:112 人)

関連事業

「鎌倉ミュージアムめぐりスタンプラリー」 【開催期間】平成 24 年 4 月 1 日(日)～平成 25 年 3 月 31 日(日)

「国芳・芳年・清方を巡る入館料相互割引」

【横浜美術館の開催期間】平成 24 年 11 月 3 日(土・祝)～平成 25 年 1 月 14 日(月・祝)

【太田記念美術館の開催期間】平成 24 年 10 月 2 日(火)～11 月 25 日(日)

【鏑木清方記念美術館の開催期間】平成 24 年 11 月 3 日(土・祝)～12 月 9 日(日)

関連記事

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展 清方の美人画」(湘南百撰 秋号)

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展 清方の美人画」(読売新聞 9 月 28 日)

「鏑木清方記念美術館 清方の美人画」(しろがね 秋号)

「鏑木清方記念美術館 清方の美人画」(かまくら春秋 10 月号)

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展 清方の美人画」(広報かまくら 10 月 1 日号)

「鏑木清方記念美術館 清方の美人画 『狐狗狸』『朝涼』など優雅な美人画約 50 点」(鎌倉朝日 10 月 1 日号)

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展 清方の美人画」(かまくら四季のみどころ 10 月号)

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展 清方の美人画」(第七回 鎌倉芸術祭リーフレット 10 月)

出品作品

「朝涼」「桜もみぢ」「梅蘭芳 天女散華」「芸妓」「年増美人」「朝夕安居(詞書)」「朝夕安居」「狐狗狸」「砧」「崔承喜 一」

「崔承喜 二」「舞妓」「カルメン」「太夫」

下絵:「瀧野川観楓」「夏の女客」「明治の女」「崔承喜(上半身)」「朝夕安居」

『文藝倶楽部』口絵:「白鳥」「夜長」「ひともし頃」「八幡鐘」「よき事さく」「こすもす」「緋桃」「茶屋の二階」「紅さす女」

『講談雑誌』口絵:「旅愁」「朝寒」

『新小説』口絵:「泉鏡花著『瓔珞品』」「試験」

その他口絵:「菊池幽芳著『百合子 中編・後編』」「菊池幽芳著『小雪 前編』」「菊池幽芳著『月魄 上巻 藤乃の巻』」

「小杉天外著『魔風恋風 中編』」「小杉天外著『落花帖』」「渡邊霞亭著『新渦巻 小説 光子の巻』」「渡邊霞亭著

『勝鬨』」「柳川春葉著『女一代 下巻』」「柳川春葉著『女一代』(小夜子)」「小栗風葉著『麗子夫人 前編』」「古愚庵主人

『ゆるさぬ関』」「江見水蔭著『雲がくれ』」「秋の旅」「微笑」「栗むく女」「A Japanese School-Girl(日本の女学生)」「小田原

の海」

『苦楽』表紙絵:「舞妓」「牡丹」「花菖蒲」「あまのがは」「湯の宿」「神田祭」「菊」「錦繡の秋」「雪」「春雨」「吉野山」「高野聖」「花野」「道成寺」「弥生」

特別展「清方描く 江戸の残り香 文化勲章への軌跡」

清方は、幼い頃より江戸時代の豊かな文化に触れており、画家になるとその文化を好んで描いた。また、北川歌麿や勝川春章の作品を模写し、画風を学んでいる。その後も、主に江戸の香りが残る明治東京の風情を描き、その業績は高く評価され、昭和二十九年に文化勲章を受章した。本展覧会では、鏑木清方が江戸の風情に取材した作品を中心に、文化勲章受章にいたるまでの画業を紹介すると同時に、新たに寄贈された、清方が受章した文化勲章や、作品資料を初公開した。



会期 平成 24 年 11 月 3 日(土・祝)～平成 24 年 12 月 9 日(日)(開館日数:31 日)

総入館者数 3,452 人(一日平均:111 人)

関連事業

美術講演会「江戸美人画の記憶-清方作品を新しく見るために-」

【講師】今橋 理子氏(学習院女子大学教授)

【日時】平成 24 年 11 月 6 日(火) 午後 1 時 30 分～3 時 30 分

「鎌倉ミュージアムめぐり」スタンプラリー

【開催期間】平成 24 年 4 月 1 日(日)～平成 25 年 3 月 31 日(日)

「国芳・芳年・清方を巡る入館料相互割引」

【横浜美術館の開催期間】平成 24 年 11 月 3 日(土・祝)～平成 25 年 1 月 14 日(月・祝)

【太田記念美術館の開催期間】平成 24 年 10 月 2 日(火)～11 月 25 日(日)

【鏑木清方記念美術館の開催期間】平成 24 年 11 月 3 日(土・祝)～12 月 9 日(日)

関連記事

「鏑木清方記念美術館 特別展 清方描く江戸の残り香」(新美術新聞 8 月 21 日)

「鏑木清方記念美術館 特別展 清方描く江戸の残り香～文化勲章受章への軌跡～」(広報かまくら 11 月 1 日号)

「鏑木清方記念美術館 清方描く江戸の残り香～文化勲章受章への軌跡」(博物館研究 10 月 25 日)

「鏑木清方記念美術館 特別展 清方描く江戸の残り香～文化勲章受章への軌跡」(旅うらら 鎌倉湘南ガイドMAP 10 月 30 日) 他 8 件

出品作品

作品名	制作年	技法/材質・形状	サイズ	所蔵
慶長風俗	大正 14 年(1925)頃	絹本着色・屏風(二曲一双)	(各)168.5×170.0	埼玉県立近代美術館蔵
葡萄	大正 7～8 年(1918-1919)頃	絹本着色・軸	146.7×50.6	同上
梅月相思	昭和 15 年(1940)頃	絹本着色・軸	128.4×35.7	同上
松と梅	大正 7 年(1918)	絹本着色・額(二面)	(各)169.0×176.0	秋田県立近代美術館
秋の夜	大正 8 年(1919)	絹本着色・軸	140.3×50.7	同上
紅萩	制作年不詳	絹本着色・軸	123.2×35.8	同上

【所蔵品】

「小楠公弁の内侍を救う」「寒月」「ためさるゝ日(右幅)」「先代萩」「曲亭馬琴」「喜寿」「雨華庵風流」「京洛の花(『紫紅』)」「道成寺(『研究画林巻之巻』)」「三郎窺幼将因(『美術くらべ 一』)」「春色嬋妍之図(『美術くら遍まき乃三』)」「金沢絵日記 二」「喜多川歌麿『当世踊子揃』の内『道成寺』『鶯娘』『三番叟』模写」「勝川春章『婦女風俗十二ヶ月』の内「杜鵑」模写」

下絵:「山東京伝」「伽羅」「茶の間の秋」「江戸風俗」「霽れゆく村雨(小下絵)」「墨田晩風」

スケッチ:「江戸美人」「寒月」「築地明石町」「三遊亭圓朝像」「曲亭馬琴」(2 点)「亀戸梅園 臥竜梅」

口絵:「千代田の大奥(『講談世界』)」「對牛樓の旦開野(『演藝画報』)」「濡衣(芝居十二ヶ月)」

絵葉書:「鏡」「女歌舞伎」「朝顔と駅路の女」「芝居のお七」「霽れゆく村雨」「天女の舞 悼花の歌」「春の夜のうらみ」「朱華芬芳」「妓女像」「慶喜恭順」「伽羅」「鯛」「一葉」

その他:「築地明石町(切手)」「扇子・たちばな(風呂敷)」「文化勲章」「文化勲章 受章証」「別冊太陽(平成 20 年)」「『萌春』 昭和 29 年 12 月 3 日号」「鉄砲洲『東京 築地川』画集」

収蔵品展 「正月の風情-羽子板展-」

鏑木清方は随筆で、どのように正月に過ごしたか記している。年賀はがきの意匠に凝ったこともあったといい、土地の氏神に出向いたり、先祖の墓参りや恵方参りをしたりと、古くから受け継がれた風習を大切にしていたことがうかがわれる。

本展覧会では、清方に見る新春の風情をお楽しみいただいた。作品や雑誌の口絵に描いた正月の情景をはじめ、願いが叶うよう気持ちを込めて、弟子たちと共に筆をとった宝珠などのほか、永井周山作の押絵羽子板《明治風俗十二ヶ月》もあわせてご紹介した。



会期 平成 24 年 12 月 15 日 (土)～平成 25 年 1 月 20 日 (日) (開館日数:29 日)

総入館者数 2,280 人(一日平均:78 人)

関連事業

「鎌倉ミュージアムめぐり」スタンプラリー 【開催期間】平成 24 年 4 月 1 日(日)～平成 25 年 3 月 31 日(日)

「国芳・芳年・清方を巡る入館料相互割引」

【横浜美術館の開催期間】平成 24 年 11 月 3 日(土・祝)～平成 25 年 1 月 14 日(月・祝)

【太田記念美術館の開催期間】平成 24 年 10 月 2 日(火)～11 月 25 日(日)

【鏑木清方記念美術館の開催期間】平成 24 年 11 月 3 日(土・祝)～12 月 9 日(日)

関連記事

「鎌倉市鏑木清方記念美術館 収蔵品展 正月の風情～羽子板展～」(旅うらら 鎌倉・湘南ガイドMAP)

「鏑木清方記念美術館 正月の風情～羽子板展～」(かまくら春秋 12 月号、1 月号)

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展 正月の風情～羽子板展～」(ジェイシーエヌ・プラス 12 月号)

「鏑木清方記念美術館 収蔵品展 正月の風情～羽子板展～」(55 歳からの盛年情報誌 12 月)

他 6 件

出品作品

「風景」「雪空」「菊慈童」「春の立場茶屋(金沢春景)」「歳旦」「春や昔」「宝珠」「白梅」「松のうち」「鉢植の梅松(試筆)」

下絵:「春雪」「初雁の御歌(小下絵)」「雪旦」「雪見舟(小下絵)」

スケッチ:「大川雪景色」

永井周山作「押絵羽子板『明治風俗十二ヶ月』」

『講談雑誌』口絵:「初夢(清方画譜の一)」「炬燵(清方画譜の十二)」、『婦人世界』口絵:「新夫人」「元日の朝」「さくら色」、『文藝倶楽部』口絵:「春を待つ」「餅むしろ」、『新小説』口絵:「冬の夜語」「虎の門 見立十二姿の内」

その他口絵:「雪積む宵(名畫十二ヶ月その二)」「初雪」「年始まわり」「昔と今の学生」「燵邊の少女講談話會」「年始客」

「歌留多會の夜『婦人公論』」「紅梅『女學世界』」「風俗美人画(一)松の内」東京朝日新聞社」「都大路『文藝界』」

「貴婦人の一日」「初東風『大正婦人』」「小栗風葉著 新かつら下地」「江見水陰著 空中飛行器 前編」橋本埋木庵著 歌吉心中」

『文藝倶楽部』附録:「鱈崎英朋・鏑木清方合作 新年大附録「松の内」」「時代美人風俗雙六」「新案雙六當世二筋道」

校合摺:「新夫人『婦人世界』」「『女子文藝』1 卷 1 号」

その他:「清方意匠 年賀状」「初東風 日本郵便株式会社」「初東風『鏑木清方名作集』」「カレンダー 中井紙製品工業株式会社」

風呂敷:「扇面に松と鈴や」「扇面にあやめ」「扇面に竹と梅」「松と藤」「凧と梅」

収蔵品展 「描かれた女性美」

日本画の巨匠・鏗木清方の作品は、情緒豊かな女性が描かれており、時代を超えて見る人の心を魅了する。清方は、古くからの日本の美術や文学の研究に打ち込み、女性美を追求した。本展覧会では、流行の装いに身を包んだ美人が土筆を摘む《早春》、樋口一葉の小説『たけくらべ』のヒロインがお墓に寄り添う《一葉女史の墓》など、明治から昭和にかけてえがかれた美人画を紹介した。



会期 平成 25 年 1 月 26 日(土)～平成 25 年 3 月 3 日(日)

(開館日数:32 日)

総入館者数 2,512 人(一日平均:78 人)

関連事業

「鎌倉ミュージアムめぐり」スタンプラリー

【開催期間】平成 24 年 4 月 1 日(日)～平成 25 年 3 月 31 日(日)

関連記事

「鏗木清方記念美術館 描かれた女性美」(かまくら春秋 3 月号)

「鏗木清方記念美術館 収蔵品展 描かれた女性美」(旅うらら 鎌倉・湘南ガイドMAP)

「鏗木清方記念美術館 収蔵展 描かれた女性美」(湘南百撰 冬号)

「鏗木清方記念美術館 収蔵品展 描かれた女性美」(かまくら四季のみどころ 2 月号)

「鏗木清方記念美術館 収蔵品展 描かれた女性美」(ジェイシーエヌ・プラス 2 月号)

「鏗木清方記念美術館 描かれた女性美」(かまくら春秋 2 月号)

「鏗木清方記念美術館 収蔵品展 描かれた女性美」(広報かまくら 2 月 15 日号)

「鏗木清方記念美術館 収蔵品展 描かれた女性美」(読売新聞 2 月 22 日)

「鎌倉山福亭と鏗木清方記念美術館 早春の庭園散策、会席料理と名画鑑賞」(いきいき 2013 年 1 月号)

出品作品

「一葉女史の墓」「暮れゆく沼」「梅蘭芳 天女散華」「金色夜叉の絵看板」「早春」「砧」「浅みどり」「襟おしろい」「年増美人」「太夫」「美人舞之図 肉筆回覧誌『美術くらべ 一』の内」「観世音菩薩 肉筆回覧誌『美術くら遍 まき乃三』の内」

下絵:「築地明石町」「大川端」「たけくらべの美登利」

スケッチ:「妓女像(2 点)」「崔承喜(2 点)」「朝涼(2 点)」「金色夜叉」「水仙」

『演芸倶楽部』口絵:「三ツ股川の高尾」「芝居茶屋の二階」

『文藝倶楽部』口絵:「紅さす女」「難壇の下」

『講談雑誌』口絵:「娘ざかり」「秋のおとづれ(清方畫譜の九)」「嬌音(清方畫譜の二)」「浮いて鷗の(清方畫譜の三)」「菖蒲湯(清方畫譜の五)」「盆提灯(清方畫譜の七)」「湊の恋(清方畫譜の八)」「旅愁(清方畫譜の十)」「朝寒(清方畫譜の十一)」「菖蒲湯(清方畫譜の五)」

その他口絵:「瑞香(百花百姿)」「新小説」「尾崎紅葉著「金色夜叉」「鳴澤宮の像」『婦人倶楽部』附録「金色夜叉」『尾崎紅葉集』」「春霞巾を着けた女『婦人世界』」「茶屋の二階(婦人風俗二十題その七 明治中世)『婦女界』」「散るいてふ『婦人世界』」「笹團子『女性』」

『苦楽』表紙絵:「たけくらべの美登利」「舞妓」「舞妓(下絵)」「湯の宿」「湯の宿(下絵)」「神田祭」「神田祭(下絵)」「菊」「菊(下絵)」「松の内」「松の内(下絵)」「王子詣」「王子詣(下絵)」「宇治の蜩」「宇治の蜩(下絵)」「箱庭」「箱庭(下絵)」「芙蓉」「芙蓉(下絵)」「ふた昔」「ふた昔(下絵)」「糞」「糞(下絵)」「紅梅屋敷」「紅梅屋敷(下絵)」

その他:「鏗木清方著「美のありか」『婦人画報』随筆第 552 号 9 月号」「日本画を描く時の苦心」『婦人世界』第 10 巻第 5 号」「たけくらべの美登利」『開館 10 周年記念図録 鏗木清方名作集』

収蔵品展 「清方描く 桜の風情」

「花」と言えば「桜」を示すほど、桜は日本で親しまれてきた。清方も桜を好み、美人画の背景や女性の衣装に桜を好んで取り入れた。

芝居を好んだ清方は、「娘道成寺」で散りかかる桜のなかを舞う花子の姿を特に愛し、この題材をたびたび描いた。

本展覧会では、《嫁ぐ人》、《しだれ桜》といった桜をテーマにした美人画や、《娘道成寺》のような春を演出した芝居絵などを紹介した。



会期 平成 25 年 3 月 9 日(土)～平成 25 年 4 月 14 日(日)

(開館日数:32 日)

総入館者数 3,569 人(一日平均:111 人)

関連事業

「鎌倉ミュージアムめぐり」スタンプラリー

【開催日時】平成 24 年 4 月 1 日(日)～平成 25 年 3 月 31 日(日)

「春休み親子鑑賞」

【開催期間】平成 25 年 3 月 26 日(火)～4 月 4 日(木) 期間中、小・中学生及び同伴者 1 名観覧料無料

関連記事

「鎌倉清方記念美術館 収蔵品展 清方描く桜の風情」(旅うらら 鎌倉・湘南ガイド MAP)

「鎌倉清方記念美術館 清方描く桜の風情 桜がテーマの美人画や芝居絵など」(鎌倉朝日 3 月 1 日号)

「鎌倉清方記念美術館 収蔵品展 清方描く桜の風情」(旅うらら 鎌倉・湘南ガイドMAP 1 月 7 日)

「鎌倉清方記念美術館 収蔵品展 清方描く桜の風情」(あさひタウンメイト 2 月 20 日)

「鎌倉清方記念美術館 収蔵品展 清方描く桜の風情」(広報かまくら 3 月 1 日号)

「鎌倉清方記念美術館 収蔵品展 清方描く桜の風情」(かまくら四季のみどころ 3 月号)

「鎌倉清方記念美術館 収蔵品展 清方描く桜の風情」(ジェイシイエヌ・プラス 3 月号)

「鎌倉清方記念美術館 清方描く桜の風情」(美じょん新報 3 月 20 日)

「鎌倉清方記念美術館 収蔵品展 清方と舞台 第二期」(湘南百撰 春号)

出品作品

「嫁ぐ人」「しだれ桜」「稚児桜(下絵)」「僧房春蘭(牡丹の寺)」「道成寺」「笠の曲(娘道成寺)」「桜乙女」「早見の藤太」

「道行浮城鷗」

下絵:「讚春(小下絵)」「道成寺」「春宵怨」「野崎村」「雪旦」

スケッチ:「志濱の筈」「桜(4 点)」

『文藝倶楽部』口絵:「花吹雪」「都鳥」「鸚鵡」「白鳥」「伽羅」

その他口絵:「千代田の大奥(『講談世界』第 2 年第 4 号)」「上野の花」「『義経千本櫻』の静御前(芝居美人畫譜一)

(『新演藝』第 7 巻第 1 号)」「花の蔭(『少女界』口絵)」「ボートレース」「佐々醒雪『俗曲評釈』のうち「道成寺」「散歩」

「光のどけき(『講談雑誌』口絵)」「佐々醒雪『俗曲評釈』 口絵」「春雪(『講談倶楽部』)」「散歩」「小栗風葉「沼の女」

(『新小説』口絵)」「川上眉山『観音岩』口絵」「金閣寺の雪姫」「江見水蔭『誰が罪』口絵」「江見水蔭『大暗礁』前編 口絵」

「松居松葉『玄雪姫 後編』」「佐々醒雪『俗曲評釈』のうち助六」「おろし酒」「菊池幽芳『賣花娘』 口絵」「渡邊霞亭『栗山

大膳』下編 口絵」

『苦楽』表紙絵:「道成寺」「吉野山」

その他表紙絵:「緋鹿子と櫻の分身と(『歌舞伎』31 号)」「柳川春葉『山桜』」「山岸荷葉『反魂記』」「微笑小史『大和の花』

「白拍子の振袖と道成寺の釣鐘(『歌舞伎』22 号)」

その他:「柴田是真遺稿模写」「鐘供養(『阿々土』第 3 号)」「春の夜のうらみ(『阿々土』第 18 号)」「舞踊鏡獅子(『阿々土』

第 25 号)」